能登半島北部沖における海底重力調査

Sea Floor Gravity Survey of Offshore Area of Northern Noto Peninsula

駒澤 正夫 [1]; 大熊 茂雄 [2]; 金沢 敏彦 [3]; 藤本 博己 [4]; 野崎 京三 [5]; 安藤 誠 [6]; 押田 淳 [7]
Masao Komazawa[1]; Shigeo Okuma[2]; Toshihiko Kanazawa[3]; Hiromi Fujimoto[4]; Kyozo Nozaki[5]; Makoto Ando[6]; Atsushi Oshida[7]

[1] 産総研・地質情報; [2] 産総研・地質情報; [3] 地震研; [4] 東北大・理・予知セ; [5] 応用地質; [6] 応用地質; [7] 川崎地質
[1] GSJ,AIST; [2] GSJ, AIST; [3] ERI, Tokyo Univ; [4] RCPEV, Graduate School of Sci., Tohoku Univ.; [5] OYO; [6] Oyo Corporation; [7] Kawasaki Geol. Eng.

能登半島北部沖で浅部地下構造を広域的に把握するため 2008 年 9 月より 1ヶ月かけて海底重力調査を行った．測定点はほぼ 2km 間隔に沖合 5km までに配置され，総測点数は 86 点となった．調査域における特徴的なブーゲー異常として，陸側の高重力異常から海岸に沿って急勾配構造が存在し，沖合数 km のところにも東北東-西南西方向の帯状の低重力異常が存在することが挙げられる．更に，海底重力調査の成果として，船上重力でも見られた勾配構造が，より急勾配構造であることが判ったことである．輪島湾にも低重力異常が見出され陥没状の構造を持つことも判った．